

【SR-9 定性的システマティックレビュー】

CQ	33	転移・再発トリプルネガティブ乳癌に対してプラチナ製剤は勧められるか？
P	転移・再発トリプルネガティブ乳癌	
I	プラチナ製剤を含む化学療法	
C	プラチナ製剤を含まない化学療法	
臨床的文脈	転移・再発トリプルネガティブ乳癌は予後不良の病態であるが、その一方で抗癌薬に対する感受性が高いとされている。DNA傷害性抗癌薬であるプラチナ製剤の転移・再発トリプルネガティブ乳癌に対する有効性について検討した。	

01	OS：プラチナ製剤を含むレジメンにおいて、わずかな差ではあるがOSが勝っていた(HR 0.85, 96% CI 0.73-1.00)。	
非直接性のまとめ	深刻な非直接性はないと判断した。	
バイアスリスクのまとめ	メタアナリシスに含まれた試験の多くは盲検化されていない。また半数以上で報告バイアスが深刻となっていたが、全体として深刻とはいえないと判断した。	
非一貫性その他のまとめ	なし	
コメント	介入群、対照群いずれのレジメンも我が国の転移・再発乳癌に対して一般的に行われているものではないが、プラチナ製剤を含むことでアウトカムが悪化するということはない。	

02	PFS/TTP：プラチナ製剤を含むレジメンの方が有効であった(PFS/TTF：HR 0.77, 95% CI 0.68-0.88)	
非直接性のまとめ	深刻な非直接性はないと判断した。	
バイアスリスクのまとめ	メタアナリシスに含まれた試験の多くは盲検化されていない。また半数以上で報告バイアスが深刻となっていたが、全体として深刻とはいえないと判断した。	
非一貫性その他のまとめ	試験毎で結果が異なっておりメタアナリシスの異質性が大きく注意が必要である。	
コメント	介入群、対照群いずれのレジメンも我が国の転移・再発乳癌に対して一般的に行われているものではないが、プラチナ製剤を含むことでアウトカムが悪化するということはない。	

03	ORR：プラチナ製剤を含むレジメンの方が有効であった (ORR: RR 1.40, 95%CI 1.22-1.59)。
非直接性のまとめ	深刻な非直接性はないと判断した。
バイアスリスクのまとめ	メタアナリシスに含まれた試験の多くは盲検化されていない。また半数以上で報告バイアスが深刻となっていたが、全体として深刻とはいえないと判断した。
非一貫性その他のまとめ	試験毎で結果が異なっておりメタアナリシスの異質性が大きく注意が必要である。
コメント	介入群、対照群いずれのレジメンも我が国の転移・再発乳癌に対して一般的に行われているものではないが、プラチナ製剤を含むことでアウトカムが悪化するということはない。